

CSR REPORT

東洋アルミグループ
CSR 報告書 **2018**



未来を創る

ALUMINIUM with+

未来を創る

行動方針に掲げた「未来を創る、私が創る。」を具体化し持続可能な社会の実現に貢献すること、それが東洋アルミグループのCSRです。

私たちは、事業活動を通じて社会に貢献し、自分たちの手で未来を創っています。

2031年に創立100周年を迎えますが、その後も150周年、200周年と持続できるように、私たちができることを真剣に考え、行動に移していきます。

持続可能な社会の実現に向けて、経営とCSRの一体化を図り、着実にCSR活動を推進していきます。

東洋アルミグループビジョン

自由な発想と確かな技術で人と地球のために。
ALUMINIUM with+

■コンセプト

【自由な発想】

ハスの葉の構造から着想した「トールロータス®」、見る角度によって色が変化する「クロマシャイン®」、短時間でおいしく焼きあがる「石焼きいも® 黒ホイイル」など、私たちは業界の常識にとらわれない自由な発想で新製品を生み出します。

【確かな技術】

圧延技術、ロール研磨技術、印刷技術、貼り合わせ技術、粉碎技術、成型技術など、私たちはいくつものコアコンピタンスを持っています。

【人と地球のために】

私たちは、全てのステークホルダーのためにベストを尽くします。
また、環境保全を重視しながら、グローバルにビジネスを展開します。

【ALUMINIUM with+】

私たちは、アルミをベースとしながらもアルミだけに拘らず、更に価値をプラスします。

■経営理念

私たち東洋アルミグループは、

1. 堅実な事業経営を通じて、常にお客様に感動を与え、社会に有用で、且つ環境にやさしい製品およびサービスの提供を目指します。
2. 絶えざる技術革新に努め、高い技術力を活かした製品の提供に努めます。
3. 生き生きとした自由闊達な企業風土を育み、集団の天才を目指します。
4. 社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。

■行動方針

「未来を創る、私が創る。」

1. 一流を目指そう。
2. 知恵くらべに勝とう。
3. コミュニケーションを深めよう。
4. 失敗力を身につけよう。
5. 感性をもっと働かそう。
6. アライアンスの構築を図ろう。
7. 安全への意識をもっと高めよう。

CONTENTS

- 01 東洋アルミグループビジョン・経営理念・行動方針
- 02 CONTENTS・編集方針
- 03 トップメッセージ

■特集

- 05 **特集 ① 社内ダイアログ**
「創立100周年に向けたサステナビリティ・ビジョン構想」
- 09 **特集 ② 有識者ダイアログ**
「社会課題の解決に向け求められるイノベーションとは」

■東洋アルミのサステナブル経営

- 13 未来に向けたビジョンと戦略
- 14 マネジメント

■CSR 5つの重要課題

- 17 **CSR重要課題 1** 未来を創るイノベーション
- 19 **CSR重要課題 2** 環境保全
- 21 **CSR重要課題 3** 多様な人財の活躍
- 23 **CSR重要課題 4** 品質と安全
- 25 **CSR重要課題 5** ステークホルダーとの協働

■サステナブル経営を支える基盤

- 27 コーポレート・ガバナンス
- 28 従業員メッセージ「一人ひとりが語る 未来への貢献」
- 29 第三者意見

■企業プロフィール

- 30 事業概要
- 30 グローバルネットワーク

■編集方針

本報告書は、持続可能な社会を目指す私たちのCSRの考え方や課題、目指す方向性および取組みの進捗を、ステークホルダーの皆さまにご理解いただくことを目的に発行しました。SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、SDG CompassをCSRマネジメントに活用しています。

本報告書は「未来を創る」をコンセプトに、特集では「ビジョン」について社内ワークショップを、「イノベーション」について社外有識者とのダイアログを実施した内容を取り上げています。

また巻末では、2017年度に引き続き、明治大学特任教授 関正雄氏から第三者意見をいただき、継続的なCSRの取組みの向上につなげています。

■参考ガイドライン

- ・SDG Compass:SDGsの企業行動指針
- ・ISO26000(社会的責任に関する国際規格)
- ・GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

■対象期間

2017年4月～2018年3月の取組みを中心に、2018年度の方針や活動について一歩報告しています。

■対象範囲

東洋アルミニウム(株)および関連会社

■発行時期

2018年9月(次回2019年9月予定、前回2017年9月)

■表紙デザイン

「未来を創る」イメージから、子どもたちが地球を支えるデザインにしました。子どもたちが持続可能な社会、地球を創っているよう、私たちもSDGsの達成に貢献したいと思います。

創立100周年に向けて 「さすが東洋アルミ」と言われる 企業集団を目指します

平成30年7月豪雨により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、多くの被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

被災された方々への支援と被災地の復興にお役立ていただくため、東洋アルミグループでは義援金を寄付させていただきました。

被災地の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

Q1 2031年に迎える創立100周年に向けて、ビジョンについてお聞かせください。

A1 会社が持続的に成長するための重要な要素としては、「あらゆる変化に迅速に対応していること」、「革新的なオンリーワン製品を市場に提供し続けていること」、そして「従業員をはじめとしたステークホルダーに満足していただいていること」の3点があります。現在、創立100周年に向けてビジョンを構想しており、東洋アルミグループならではの長や強みを活かして社会課題に取り組み、実現していく姿を描きたいと考えています。

ただ、ビジョンは役員だけで描くものではありません。当社グループでは、常日頃からトップの意見だけでなくボトムアップの取組みを重視しています。ビジョンについても、従業員自らが自律的に会社の未来を考えることを重視しており、CSR推進チームにより、ビジョン検討のワークショップ

を実施しました。ここで出てきた内容をもとに、創立100周年のビジョンを、従業員全員で作り上げていきたいと考えています。

Q2 SDGsについて、どのように認識され、どのように取り組んでいかれるお考えですか。

A2 企業は、企業活動で財務的な成果を出すとともに、その活動を通じて社会に貢献することが重要です。この両方を実現するために、SDGsは非常に有効だと考えており、東洋アルミグループ全体で取り組んでいます。持続可能な社会の実現なくしては企業の存続は成り立ちません。

とはいえ、SDGs達成への貢献に関しては、当社グループはまだ取組みを始めたばかりで、まずは社内浸透を早急に進めたいと考えています。役員・従業員へ教育をして、全員に理解してもらいたいですね。今、役員全員が、SDGsバッジをつけることから始めています。さらに、SDGsを中期経営計画に組み入れることも進めています。役員には、自部門の経営戦略とSDGsを関連付けて社内外で語ってもらうことを考えています。例えば、「SDGs貢献製品の売り上げ割合」などといった目標の設定を検討しており、先にお話した創立100周年のビジョンにも取り入れていきます。

また同時に、2018年4月、当社は国連グローバル・コンパクトに参加しました。当社グループと社会の持続可能な発展

に向けて、国連グローバル・コンパクトの10原則の実践が重要であると認識しています。

Q3 2017年に策定されたCSRにおける5つの重要課題(マテリアリティ)について、今後の取組みをお聞かせください。

A3 重要課題のうち、「未来を創るイノベーション」は直接的に企業価値を向上させるもので、特に重視しています。最近の電気自動車への急速なシフトに見られるような社会の変化に感度高く対応し、イノベーションを起こすことは、事業機会の創出につながります。また、イノベーションは自社単独でなく、さまざまなパートナーシップを重視して進め、第5の柱、第6の柱へ成長させたいと強く考えています。日本社会の課題である、エネルギー、公共インフラ、高齢化社会における生活環境、電子デバイスに関するビジネスを検討しています。また、リサイクルについても取り組むべき課題だと思っています。

他にも、環境や品質および安全への対応は、企業として果たすべき重要な責務で確実な対応が求められており、それに応えていきたいと考えています。特に品質については、アルミ業界で問題のあった事例を他山の石とし、当社グループとしても2018年度はこれまで以上に注力することで、品質は企業の命であることを全員に徹底します。また、人材は長期

的な競争力の源泉であると認識しています。従業員が満足して働ける会社を目指し、女性や外国人を含めてこれまで以上の積極的な採用をしていきたいと考えます。多様な人材がそれぞれの持つ能力を十分に発揮できる環境を整えることで、社内の発想が変わりイノベーションを生み出す契機になることと期待しています。

イノベーションを生み出す上で社会のニーズ・目指すべき方向性を知ることが大切であり、そのためのツールとしてSDGsを使うことが有効的です。その際、社内で議論するだけでなく、社外の意見に積極的に耳を傾け、東洋アルミグループに何が求められているのかを客観的に理解し、取り組んでいくことが重要であると考えています。

会社として、イノベーションを生み続け、社会のニーズ・目指すべき方向性に合致する経営が大切であり、そのために、私たちは、「さすが東洋アルミ」と言われる企業集団を目指しています。2018年度は、創立100周年に向けたビジョンについてSDGsを取り入れ、目標とロードマップを中期経営計画に反映した経営を行っていきます。

東洋アルミニウム株式会社
代表取締役社長

山本博



特集 ① 社内ダイアログ

「創立100周年に向けたサステナビリティ・ビジョン構想」

東洋アルミグループは、2031年に迎える創立100周年に向けた成長戦略を検討しています。成長戦略とは財務戦略だけで成り立つものではなく、それを実現するための道しるべとしてSDGs達成への貢献を含めた企業価値向上のための戦略(サステナビリティ・ビジョン)が必要です。東洋アルミグループは、サステナビリティ・ビジョンをトップダウンだけでなく、ボトムアップで従業員が主体となり議論を重ねています。社会に価値を生み出し、持続可能で、イノベーションを創出し続ける組織づくりを目指します。

グループ横断型・部門横断型に組織しているCSR推進チームおよびCSR推進室メンバーにおいてサステナビリティ・ビジョン案を検討しました。CSR推進チームとは2016年12月に発足した組織で、東洋アルミニウム(株)の事業部門および管理部門、東洋アルミエコプロダクツ(株)、東海東洋アルミ販売(株)の次世代を担う中堅リーダーを中心としたメンバー計13名で構成されます。

2018年3月から4月にワークショップを3回開催し、第1

回および第2回は3グループに分かれてのグループディスカッション、第3回は全員でラウンドテーブル・ディスカッションを行いました。

今後、CSR推進チームでの検討の他にも、従業員がそれぞれの立場で検討を重ねます。それらの結果を取りまとめて最終的に経営層による確認・承認を得た上で、東洋アルミグループとしてのサステナビリティ・ビジョンを策定し、財務目標の達成とともにSDGs達成への貢献を目指していきます。

第1回 ワークショップ

東洋アルミグループのSDGs達成への貢献の方向性

第2回 ワークショップ

自社の本質的強みと価値創造モデル

第3回 ワークショップ

100周年に向けたサステナビリティ・ビジョン

第1回 ワークショップ

〈議論のテーマ〉

東洋アルミグループは、イノベーションを通じてSDGsの各ゴールにどのように貢献できるか

主に東洋アルミグループのSDGs達成への貢献の方向性について3グループに分かれてディスカッションし、取りまとめました。ワークショップで出た意見を、右図にまとめています。具体的なアイデアとしては、製品や技術などのイノベーションを通じて、エネルギー・気候変動や、インフラの安全性・効率化、資源の効率的な利用といった問題への貢献や、競争力に直結する事業プロセス強化を通じた貢献がより重要であるという共通認識を持ちました。



開催概要

【開催日】
2018年3月13日(火)、4月12日(木)、4月24日(火) (計3回)

【場所】東洋アルミニウム株式会社 大阪オフィス

【出席者】

①東洋アルミグループ CSR推進チーム

・東洋アルミニウム株式会社

- 箔事業本部 古枝 元樹
- パウダー・ペースト事業本部 浅野 祐一
- ソーラー事業本部 越智 裕
- 新事業創造部 松井 哲也
- 新事業創造部 澤田 侑太郎
- 先端技術本部 上松 正和
- エンジニアリングセンター 渡邊 圭一
- 経営企画部 大塚 達明
- 総務部 山本 英樹
- 人事部 澤井 満徳

・東洋アルミエコプロダクツ株式会社

- CSR推進室 荻原 信久
- パッケージ営業部 伊崎 佳克

・東海東洋アルミ販売株式会社

- 総務部 川原 聡

②東洋アルミニウム株式会社 CSR推進室メンバー

事務局：東洋アルミニウム株式会社 CSR推進室

	SDGs達成への貢献	貢献の方向性
イノベーションを通じたSDGs達成への貢献	7 再生可能エネルギー 13 気候変動対策	・再生可能エネルギー、蓄電池 ・グローバルの発電事業
	12 持続可能な消費と生産	・リサイクル、循環型ビジネス
	9 産業・インフラ	・(既存技術を活かした)塗料/エネルギー・イノベーション
	11 持続可能な都市とコミュニティ	・メンテナンスフリー、耐久性強化インフラ
事業プロセスを通じたSDGs達成への貢献	2 気候変動対策	・農業・食品保存ソリューション
	8 雇用と経済成長 12 持続可能な消費と生産	・多様な人財の活躍 ・責任ある生産・消費

第2回 ワークショップ

〈議論のテーマ〉

東洋アルミグループの本質的な強みとは何か
東洋アルミグループが長期的・持続的に価値を創造し続けるためには

東洋アルミグループの「これまで」と「これから」について、本質的な強みや活かすべきDNAおよびそれらを踏まえた長期的・持続的価値創造ビジネスモデル、そのビジネスモデルによるSDGs達成への貢献について、3グループに分かれてディスカッションし、取りまとめました。

「これまで」はアルミ加工技術を軸に、幅広い顧客ニーズに研究開発力で応え、価値を広げていくビジネスモデルであることが共有されました。「これから」のアイデアとしては、アルミの可能性のさらなる追求や、これまで培った技術をアルミ以外へ展開するなど、ビジネスモデルの進化を通じて、SDGs達成へ貢献していくことが共有されました。

価値観・強み

- ・真面目、技術志向
- ・人を大切にする
- ・アルミの基礎研究開発力、加工技術
- ・優良な顧客基盤、新規顧客開拓力
- ・トップシェア、オンリーワン品質・性能
- ・チャレンジを促す
- ・社内で活発な意見交換



ビジネスモデル

【これまで】
・アルミ加工技術を軸として幅広い顧客ニーズに対応する中で製品・技術開発と顧客開発を繰り返し、価値を創造



進化

【これから】
・アルミの可能性のさらなる追求
・アルミで培った技術のアルミ以外への展開
・顧客・用途市場、事業展開エリア、バリューチェーンの拡大

創出価値=SDGs達成への貢献

- 7 再生可能エネルギー
19 気候変動に具体的な対策を
・分散型を中心とする再生可能エネルギーのバリューチェーン拡大
- 3 健全な働き場
・薬の包装材料にセンサーを組み込む、医療機器への本格参入など、医療分野での事業拡大
・有害物質を除去する素材
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを
・アルミの機能を活かした環境、安全、インフラへの貢献
- 12 つくる責任
つかう責任
・アルミの環境負荷ゼロ化
- 2 飢餓をゼロに
・農作物を長期保存する包装材料

第3回 ワークショップ

〈議論のテーマ〉

これまでの議論を踏まえて
サステナビリティ・ビジョンに含めるべき
内容・キーワードとは

第1回および第2回のワークショップの結果を踏まえて、CSR推進チームの考えるサステナビリティ・ビジョン案に関するラウンドテーブル・ディスカッションを実施しました。「財務目標の達成とともにSDGs達成への貢献にもつながるもの」という視点はもちろんのこと、「東洋アルミグループらしさが出ているもの」「誰が見ても分かりやすいもの」という視点で案を検討しました。



東洋アルミグループとして注力しているイノベーションの方向性、また、環境や人財に関する取組みの方向性を勘案し、検討した結果を右ページに紹介します。ワークショップに参加したメンバーからは「他部門の人と会社の未来を語ることができて良かった。自分の業務の役割をSDGsと照らし合わせ、再認識できた」「SDGsを通じて、各部門の方向性が統一されたと感じた。また、意識が共有できたと思う」といった声が寄せられました。



これは、CSR推進チームが考えるサステナビリティ・ビジョン案ですが、従業員がそれぞれの立場で検討を重ねます。それらの結果を取りまとめて東洋アルミグループとしてのサステナビリティ・ビジョンを策定し、財務目標の達成とともにSDGs達成への貢献を目指していきます。

東洋アルミ・サステナビリティ・ビジョン(案)

「TOYAL2031 ~100周年に向けて~」

アルミニウム with+ 持続可能な未来を創る

目指す姿

- アルミの新たな可能性を広く追求し、人々の暮らしを支えるイノベーションを創出し続けます

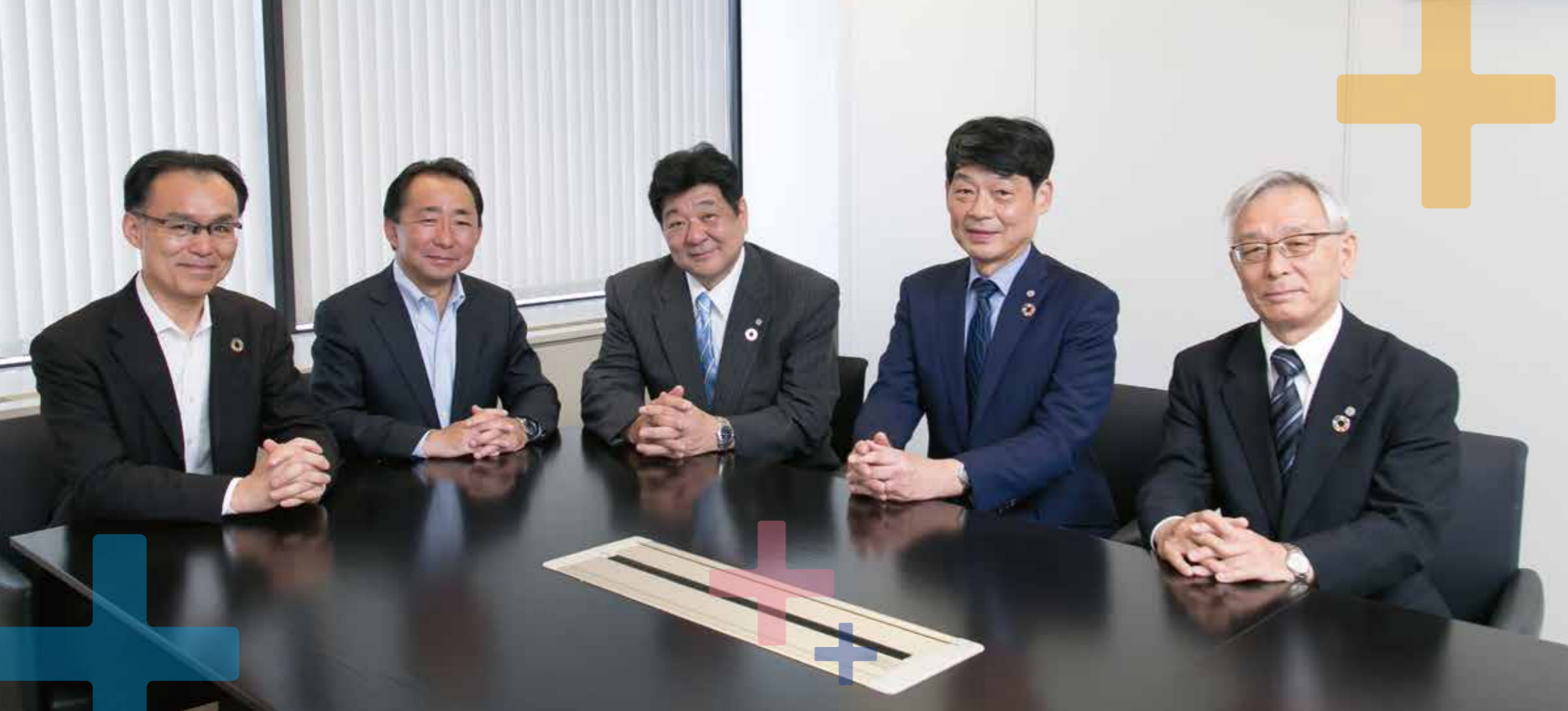
2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを
- 素材特性と強みを活かして、クリーンなエネルギーの普及に貢献します

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
13 気候変動に具体的な対策を
- 事業活動からのCO₂排出量を30%削減します

13 気候変動に具体的な対策を
- さまざまなステークホルダーと協働し、製品ライフサイクルを通じてリサイクルのシステムを構築します

12 つくる責任
つかう責任
17 パートナリシップで目標を達成しよう
- 多様な人財が生き生きと活躍できるスマートファクトリー、スマートオフィスを推進します

5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も



特集 ② 有識者ダイアログ

「社会課題の解決に向け求められるイノベーションとは」

東洋アルミグループとして、今後どのようなイノベーションを推進していくべきか、SDGsを契機にイノベーションを加速していくためにはどうすればよいのか、一般社団法人Japan Innovation Network専務理事の西口 尚宏様をお招きし、東洋アルミグループのイノベーションについてSDGsの視点で積極的な意見交換を実施しました。

開催概要

【開催日】 2018年5月21日(月)

【場所】 東洋アルミニウム株式会社 大阪オフィス

【出席者】 有識者



一般社団法人Japan Innovation Network
専務理事
西口 尚宏 氏

東洋アルミニウム株式会社



取締役 常務執行役員
新事業創造部統轄
富岡 祥浩



常務執行役員
先端技術本部統轄
足高 善也



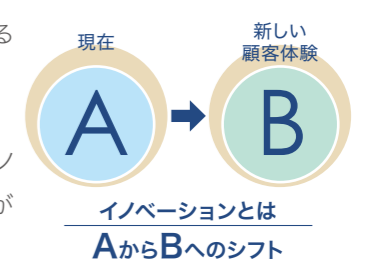
常務執行役員
CSR推進室統轄
吉田 昌弘

ファシリテーター



株式会社クラン
チーフCSVオフィサー
水上 武彦 氏

たり、まさに試行錯誤することがポイントとなります。



【水上】では、SDGsとイノベーションとはどうつながるのでしょうか。

【西口】AからBへのシフトの話をしてきましたが、ほとんどのイノベーション活動は、この「B」を探すことに一生懸命になっているように思います。実はこの「B」についての世界193カ国の合意事項というのがSDGsです。イノベーションの到達点ということですね。Bが決まればAからBへシフトさせる活動をすればよいこととなります。SDGsには、17のゴールに紐づく169のターゲットがあります。これらに基づいて企業は自社の収益の上がる事業をつくり、そこにお金流れ込むしくみをつくり出すことが肝要です。

【水上】現在、日本においてもSDGsの関心が急速に高まっていますが、企業の動きをどう見えていますか。

【西口】SDGsに積極的に取り組まれている企業が多い一方、残念な対応に終わっているところもあります。非常に多いのが、自社事業の説明用語と勘違いしているパターンです。SDGsはゴールであり、そこに到達するための事業活動が必要となります。ここを間違えると、単なるコミュニケーションツールになってしまいます。SDGsの17のゴールは193カ国の合意事項としてよく考えられており、地球上のあらゆる社会課題を網羅しています。そこに全く関係ない事業を見つけるほうが難しいでしょう。

【足高】確かに、私たちの研究テーマは過去案件も含め、17のゴールのどれかに必ず当てはまると思います。これまで私たちのイノベーションは、今までやってきたことが一番のベースにありました。SDGsを活用したイノベーションとは、具体的にはどのように進めるべきでしょうか。

【西口】17のゴールの下に169のターゲットがあります。これをさらにブレイクダウンする中で、公的・民間・市民それぞれのセクターで貢献できる部分が見えてくるので、そこからAからBへのシフトの「B」を決めます。東洋アルミが実現できるシフトです。東洋アルミでは、これまでも数多くのシフトを起こしており、アルミニウムという素材を通じて世の中に大きな貢献をされています。まずは存在価値の根っここの部分に立ち戻り、自分たちはどこをターゲットにするか、何ができるかについて想像力を働かせることが大事です。若手の方やさまざまな部門の方を含めて議論されるといいと思います。

「現在=A」から「新しい顧客体験=B」へのシフト、それがイノベーションの本質

【水上】東洋アルミでは「未来を創るイノベーション」を重要課題のひとつに掲げています。イノベーションを実現するのは容易ではないと思いますが、どのような点がポイントになるのでしょうか。まずは西口さんに伺いたいと思います。

【西口】「顧客体験の劇的なシフトを起こすこと」に尽きると思っています。「現在=A」から「新しい顧客体験=B」にどうシフトさせるか、ということです。イノベーションは構想×実行で価値を生み出しますが、日本企業の場合、実行力については世界トップクラスだと思います。問題は構想力です。構想とは課題発見、コンセプト化、そして事業モデル化のことです。構想するには、課題発見から事業モデル化までを行ったり来

イノベーションを推進する上で 欠かせないバックキャストिंग



【吉田】AからBへのシフトに対して、SDGsの中から「B」を議論して、東洋アルミのターゲットを明確にするということですね。当社の従業員は得てして、「A」である「現在何ができるか」を考える積み上げ式の思考をとる傾向があります。それに対して新事業創造部および先端技術本部の2つの部署は、「B」から考えることができる組織であると感じています。

【西口】まさにバックキャストの考え方です。先に到達点を置いて、逆引きしていくということです。

【富岡】SDGsの169のターゲットですが、ものすごく大きなテーマであると感じています。それをブレイクダウンしてもまだ大きいのではないのでしょうか。その中で東洋アルミが担う役割を考えていかなければいけません。

【西口】その通りです。ブレイクダウンをした上で、会社のプロジェクトに変えていく必要があります。SDGsの17のゴール、169のターゲットを世界中で目指していることは事実で、あらためてその必要性を議論する必要がないということは、SDGsを活用する大きなメリットといえます。



【足高】先にゴールを決めてバックキャストで到達を目指す中でイノベーションを起こすという発想は良いですね。現在は、自社の取組みをベースにして考えて、SDGsのゴールと結び付けるだけに留まっているように思います。

【水上】現状の取組みとゴールを結び付けること自体は否定しなくてもよいと思います。そこから、ゴールを目指して、事業として新たな取組みを進めていくことが重要です。

【足高】そうですね。このような進め方をするにあたり、私はメンバーとの議論が非常に重要になると考えています。言葉の意味の理解、目指したい方向、自分たちに何ができるのかについて、時間をかけて議論を深めたいと考えます。

【西口】それがまさに「行ったり来たり」のイノベーションの課題発見のところに当てはまります。従業員がやりたいと思わない限りやれません。信念や思いが非常に重要になります。

そのためには議論が必要です。

【富岡】今やっているイノベーションをSDGsと意識的に結び付けて、バックキャストとフォアキャストの両方でやっていきたいですね。

【西口】大事なのは、1社で解ける課題は多分ないということです。けれども、東洋アルミがないと解けない課題を見つけることが肝になります。徹底的に「東洋アルミがいなければ困る」という状況をつくるのが重要です。そうすると、巨大な解決策の一部に東洋アルミが入り込むことができます。

真のニーズを捉え、 本質的な価値をアピールする発信力

【足高】私は自社の持つ技術などのアピールも大事だと思っています。どうしても控え目になり、自分たちで芽をつぶしているのではないかと懸念しています。

【西口】そうですね。まずは世界に目を向け、誰が何の課題を解こうとしているかの情報を収集・分析するとよいと思います。そのようなプラットフォームが世界中に多くあります。

【富岡】逆に言うと、そのようなプラットフォームの中で、自分たちが解決したい課題をオープンにして、一緒に解決してくれる人を集める、という発想もありますね。

【水上】そのストーリーづくりに、SDGsという共通言語に紐づけてコミュニケーションするのが有効だと思います。例えば、東洋アルミの強みであるアルミ加工技術などをSDGsと結び付けてアピールするのがよいと思います。トータルロータス®の技術は、現在ヨーグルトの蓋に使われていますが、それ以外に使用することで食品ロスの問題に関連するのではないのでしょうか。

【吉田】何をどこで伝えるか、発信力の強化も当社グループの課題のひとつといえますね。

【西口】コミュニケーションで解決できることもありそうですね。自分たちが持つ技術は、本質的なお客さま目線でのどのような価値を生むのか、それを伝えなければなりません。



有識者 コメント

「起こしたいシフト」を探し、 イノベーションを加速させることを期待します

私は、東洋アルミとして起こせるシフト、起こしたいシフトを探すことが最も重要だと考えています。どのテーマに貢献するのかを考えることです。考えるに当たり、自社起点、マーケット起点のどちらも大事です。研究開発として多くのテーマを抱えられている場合は、今起こそうとしているシフトはマーケットニーズ（SDGsのターゲット）に合っているのかを考えてみてください。ニーズのあるテーマに対して会社リソースを費やすことが大事です。ダイアログの中で、SDGsは起こしてほしいシフトの合意事項である、というお話をさせていただきました。ぜひ何に貢献するのかを皆さんで議論を深めて決めてください。また、ダイアログでお話を伺っている中で、貴社ですでに多くのイノベーションを起こされていることが分かりました。後はコミュニケーションと、海外ネットワークの活用、それらでイノベーションは加速するのではないかと感じました。



一般社団法人Japan Innovation Network
専務理事
西口 尚宏 氏

自社の存在価値を、SDGsの達成と照らして考えていきます

常々、企業というものは生命体であり、世の中に残るには存在価値がないといけないと考えてきました。本日のダイアログを受けて、企業の存在価値というのは、SDGsのゴール、ターゲットの達成に貢献する力であると感じました。まずはじっくりと、どこに貢献できるのか、貢献したいのかを考えたいと思います。そして、グローバルな発信力を高めたいと感じました。



取締役 常務執行役員 新事業創造部統轄 富岡 祥浩

ダイアログ を受けて

SDGsのターゲットを具体的に特定し、仲間と議論を深めます

ダイアログでは貴重なご意見、ありがとうございました。今、私たちが最も注力しているのはエネルギー分野です。SDGsでいうとゴール7に当たります。今後は具体的なターゲットを特定し、2030年に向けて、東洋アルミとして何ができるか、何をしたいかを仲間と議論を深めていきたいと考えます。



常務執行役員 先端技術本部統轄 足高 善也

社内連携でSDGsの達成に貢献します

このダイアログの中で、イノベーションを一層推進するヒントを多くいただきました。私はCSR推進室というSDGsの達成に向けた取組みを推進する役割を担っておりますが、新事業創造部と先端技術本部が担っている役割もまた、SDGsの達成に向けた取組みを進めるものであることを強く認識しました。社内連携して達成に貢献します。



常務執行役員 CSR推進室統轄 吉田 昌弘

未来に向けたビジョンと戦略

東洋アルミグループでは、経営理念および行動方針に基づくCSR基本方針、CSR行動憲章を策定し、CSR活動を推進しています。また、SDGs(持続可能な開発目標)について、その背景を理解した上で目指す姿に賛同しており、SDGs達成に向けて取り組んでいます。企業活動を通じて持続可能な社会へ貢献し、企業価値向上を目指します。



CSR基本方針

東洋アルミグループは、健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指します。そのために、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動の展開、安心してお使い頂ける製品品質の提供、地球環境と調和した経営活動の推進、および労働安全衛生を職場の最優先事項とした活動を通じて社会的責任を果たす経営を展開して参ります。

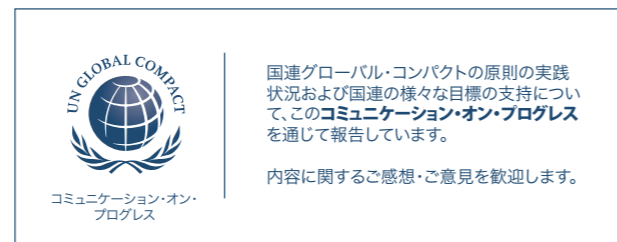
国連グローバル・コンパクトへの参加

東洋アルミグループは、国連グローバル・コンパクトに署名し、2018年4月10日付で参加企業として登録されました。

私たちは、国連グローバル・コンパクトの掲げる「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則にのっとり、グローバル企業として責任のある経営と、グループ横断的なCSR活動を積極的に推進することで、持続可能な社会へ貢献していきます。

2018年度は10原則の内容の社内勉強会を行い、理解を深める予定です。あらためて「人権」「労働」「環境」「腐敗防

止」について再認識し、従業員一人ひとりが社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会へ貢献します。



SDGsについて

2015年9月、全国連加盟国(193国)は、より良い未来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」です。SDGsは、ミレニアム開発目標で十分に手を打てなかった課題に加え、Rio+20で議論された深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって『誰も取り残されない』世界を実現しようという壮大なチャレンジです。



出所: グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンHPより引用 <http://www.ungcnj.org/sdgs/index.html>

マネジメント

SDG Compassに基づいたCSRマネジメント

東洋アルミグループでは、SDGsを企業経営およびCSR活動に活用し、SDGs達成への貢献を測定・管理していくため、SDG Compassを取り入れたCSRマネジメントを実践しています。

CSR推進体制は、常務執行役員を統轄責任者とし、CSR推進室が事務局という形で整備しています。また、東洋アルミグループとしての組織横断型のCSR推進チームを発足しています。CSR推進チームは、CSR活動を従業員一人ひとりに「自分ごと」と捉えてもらうことを目的とし、その中心とな

る組織です。各部門から精鋭を選び出し、そのメンバーには各部門にCSR活動を浸透させ、CSR活動を推進する役目を果たしてもらっています。

SDG Compassに従い、2017年度は、ステップ1「SDGsを理解する」、ステップ2「優先課題を決定する」、ステップ3「目標を設定する」、ステップ4「経営へ統合する」、ステップ5「報告とコミュニケーションを行う」の全てのステップを実施しました。2016年度から継続して着実にステップを踏み、今後もさらなる活動の充実に努めます。



ステップ① SDGsを理解する

2016年度に実施した役員・部門長を対象としたSDGsの勉強会に引き続き、2017年度は、管理職を対象とした勉強会を行いました。

また、全従業員に四半期ごとに配布している社内報もSDGsの浸透に活用しています。社内報にある「わたしたちのCSR活動」というコーナーは、従業員が自身のCSR活動

を寄稿するものですが、そこではCSR活動とSDGsを紐づけて紹介しています。このことで、従業員の普段の業務・行動がSDGsの達成に貢献していることを認識する契機となっています。

2018年度は、従業員への理解浸透を目的としたSDGs勉強会を予定しています。



ステップ②

優先課題を決定する

東洋アルミグループのCSR重要課題(マテリアリティ)は、以下の3つの手順を踏み、2017年度に策定しました。まず、ステークホルダーを代表する専門家の方に、東洋アルミグループによる社会課題への貢献に関する期待を伺いました。また、CSR推進チームが、東洋アルミグループにとっての重要課題を洗い出し、さらに経営層へのヒアリング結果を加味した上で、その重要度を分析しました。最後に、「ステークホルダーから見た期待」と「自社から見た重要度」による分析を実施した上で策定しました。策定したCSR重要課題(マテリアリティ)は右の5つです。重要課題に取り組むに当たり、ガバナンスがその基盤にあります。

■ 東洋アルミグループのCSR重要課題



東洋アルミグループのCSR活動アクションプラン

CSR重要課題	主な活動項目	活動内容
1 未来を創るイノベーション	第5の柱の構築	SDGsを意識した研究、開発
	環境貢献製品の販売	Hane™モジュール、リチウムバッテリー用アルミ箔、水性塗料など環境に貢献する製品の販売
2 環境保全	重大環境トラブルゼロ	事業所単位で計画の立案と実行・フォロー
	エネルギー原単位の改善 エネルギー使用量の削減	省エネルギー関連設備投資と改善活動の推進
	産業廃棄物の削減	産業廃棄物削減活動の実施、廃棄物分別の啓発と実施
3 多様な人財の活躍	柔軟な働き方の実現	選択労働時間制の導入
	女性活躍	新卒女性総合職採用
4 品質と安全	重大品質事故ゼロ	事業所単位で計画の立案と実行・フォロー
	休業災害ゼロ・不休業災害ゼロ・火気事故ゼロ	事業所単位で計画の立案と実行・フォロー
	危機管理体制の確立	BCM(事業継続マネジメント)の構築
5 ステークホルダーとの協働	地域との共存	各事業所の地域での清掃活動など
	その他のステークホルダーとの協働	ステークホルダーダイアログの実施



ステップ③

目標を設定する

CSRにおける5つの重要課題に対する対応すべき課題を2018年から2020年の中期経営計画から抽出しました。アウトサイドイン*の観点やSDGsを意識し、東洋アルミグループとしてそれらに貢献できる項目を選び出しました。私たちが行ってきた企業活動の多くがSDGsの達成へ貢献することが分かります。このことを従業員一人ひとりが理解することで、さらなる貢献へとつなげていきます。下表のCSR活動アクションプランは、その一部を表しています。

*アウトサイドイン:世界的な視点から、何が必要かについて外部から検討すること。

2017年度実績	2018年度目標
SDGsの理解と課題の抽出	SDGsを意識した研究、開発の推進
昨年度比95%	昨年度比160%
重大環境トラブル0件	有効性を重視した活動とフォロー
エネルギー原単位5%改善 エネルギー使用量1.8%削減	エネルギー原単位で1%の改善 エネルギー使用量で2.5%の削減
産業廃棄物原単位3%悪化	産業廃棄物原単位で2%の改善
制度の検討	制度の試行
新卒女性総合職採用 23%	新卒女性総合職採用 30%
重大品質事故0件	有効性を重視した活動とフォロー
休業災害0件・不休業災害10件・火気事故6件	有効性を重視した活動とフォロー
構築準備	モデル事業所構築後に、横展開を開始
河川清掃などの実施	社会貢献活動の推進
NPOとの情報交換の実施	ダイアログの実施(有識者・NPOなど)



ステップ④

経営へ統合する

東洋アルミグループでは2016年度から、共有価値の創造(CSV*)の考え方を取り入れ、攻めのCSR活動を実施しています。東洋アルミグループにおけるCSR重要課題は、SDGs達成への貢献につながるものであり、さらに下表のCSR活動アクションプランは中期経営計画とリンクさせて策定しました。より確実に経営と統合するために、東洋アルミグループでは、これらの活動を事業として取り組む根拠を明確にし、経営戦略の中に組み込むことを進めています。さらに、それを各部門において主体的な取組みにするため、私たちはCSR推進チームで議論を重ね、活動の必要性についての検討を深めています。全社一丸となってSDGs達成への貢献を目指します。

*CSV:Creating Shared Valueの略。社会課題への取組みによる「社会的価値の創造」と「経済的価値の創造」の両立により、社会と東洋アルミグループ双方の価値を生み出し、企業価値向上を実現すること。

担当役員コミットメント

全従業員の知恵と努力を結集して、持続可能な未来を創る



常務執行役員 CSR推進室統轄
吉田 昌弘

攻めのCSR活動としてSDGsの活動に取り組み始めて3年目を迎えました。

SDGsのゴールが2030年、東洋アルミの創立100周年が2031年に当たり、この両方をターゲットにして、スモールスタートながら着実に目標に向かって活動を進めています。

このSDGsの活動は私たちにあって、将来の「ありたい姿」、そして全従業員の向かうべき目標と合わせべきベクトルを示してくれるものだと思っています。

その中でも東洋アルミグループのCSR重要課題のひとつ目に「未来を創るイノベーション」を掲げています。創立100周年を目指す私たちにイノベーション無くして成長戦略や未来はありません。その実現のためには東洋アルミグループが目指す「団体の天才」として、一人ひとりがチャレンジすることが期待されています。





私たちは、全従業員の知恵と努力を結集して、持続可能な未来を創っていきます。

1 未来を創るイノベーション

WHY? なぜ重要か?

私たちの最も重要な社会的責任は、社会的ニーズに対して新しい製品・サービスを提供し、社会課題の解決・持続可能な社会に貢献するとともに、経済的価値を創造することだと考えています。市場では、新しい技術が発達するとともに、競争スピードが加速し、先行者が市場を独占する世の中になっています。こうした状況の中、私たちは、アルミニウムをベースにしながらもアルミニウムにこだわらず、新しい発想で明るい未来と価値創造に全速力で挑戦していきます。

SDGs達成への貢献

	東洋アルミグループが貢献可能なSDGsのターゲット*	東洋アルミグループのアプローチ
	3.4 2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。	医療機関や製薬会社などとの連携により、医療現場でのニーズをくみ取り、東洋アルミグループ独自の技術を用いた製品イノベーションを起こします。質の高い保健サービスへのアクセスに貢献します。
	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。	太陽電池や、電気自動車のバッテリーなどに使用される材料などの提供を通じて貢献しています。今後は、これらの製品の販売範囲拡大を含め、東洋アルミグループの技術を使った貢献の可能性を探っていきます。
	11.6 2030年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。	素材の劣化防止や強度向上など、構造物の長寿命化に貢献する技術でイノベーションを起こしていきます。
	12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	アルミニウムはリサイクルシステムが進んでいる素材ですが、厚みが薄いアルミ箔のリサイクルはまだ確立されていません。東洋アルミグループはアルミ箔を扱うメーカーとして、限りある資源を有効に活用することが重要であると考えています。例えば、使い捨てアルミ容器のリサイクルシステムの実現は、大きな課題であり、イノベーションを推進したいと考えています。

*ターゲット:SDGsの17のゴールに紐づく169のターゲット。

OUR APPROACH

アプローチ

すでに顕在化している社会課題や潜在的な課題、市場の環境変化に対応するため、東洋アルミグループの持つコア技術をベースに、先端技術本部および新事業創造部を中心として研究開発および事業化を推進しています。対象を「既存市場」「新市場」「次世代市場」の3つの市場に分類し、それぞれにリソースを投入して研究開発に取り組んでいます。自社だけでは解決が難しい場合は、国内外を問わず、ベンチャー企業や大学、研究機関などのパートナーとアライアンスを結ぶオープンイノベーションを積極的に推進しています。

私たちは、「共有価値の創造(CSV)」の観点を取り入れ、ステークホルダーとのコミュニケーションを深め、東洋アルミグループと社会との共有価値の創造を実現できる開発を行います。また、アルミニウムをベースにしながらもアルミニウムにこだわらず新しい発想で世界をリードしていくことを目指します。

OUR PERFORMANCE

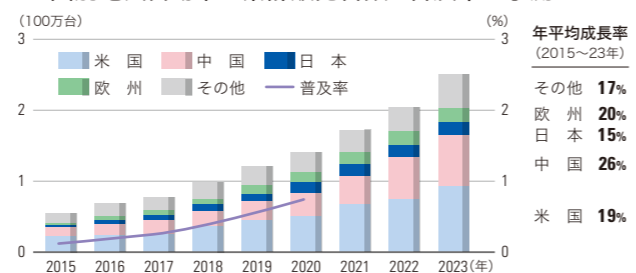
活動事例

電気自動車普及への貢献

環境対策の取組みの一例として、世界で販売台数が拡大している電気自動車の普及が挙げられます。東洋アルミニウム(株)では、主に自動車部材メーカー(主に中国向け)に対して電気自動車のバッテリー部分に使用される外装材用アルミ箔や正極材用アルミ箔、コンデンサー(蓄電器)部分に使用されるアルミ箔などを提供しています。東洋アルミニウム(株)の高品質なアルミ箔は、成形性に優れ、さまざまな形状加工を実現します。

今後は世界中に販売範囲を拡大し、世界規模での電気自動車普及を通じたCO₂削減に大きく貢献していきます。

■ 国別電気自動車の累計販売台数と普及率の予測*



*EYトランザクション・アドバイザリー・サービス(株)池田健一・祝 煜洲・木村侑太郎、「情報センサー2017年7月号 Trend watcher 電気自動車の市場環境と将来の展望」を基に、当社作成。

環境に有害なVOC削減に貢献する水性塗料の普及

東洋アルミニウム(株)は、アルミ顔料を水性塗料に対応させる独自の表面技術を有し、VOC*削減に貢献する水性塗料の普及を推進しています。世の中には水性塗料に適合できず使用できない顔料も少なくありませんが、東洋アルミニウム(株)の表面技術を組み合わせることで、新しい色彩を世の中に提供できる可能性があります。

2017年度、米国の特殊顔料メーカーであるVIAVI Solutions社が開発した鮮やかな青色顔料を、東洋アルミの表面処理技術を適用することで耐久性を持たせることに成功し、製品化することができました。

*VOC:揮発性有機化合物。塗料やインキ類に多く含まれるが、光化学スモッグの原因などのため、各国で規制対象になっている。自動車塗装などではVOC削減のために水性塗装対応が求められる。

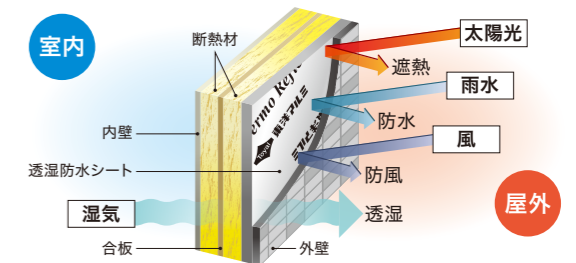


VIAVI Solutions社で新規開発された顔料(左)と従来の顔料(右)

住宅の長寿命化に貢献する透湿防水シート

住宅の外壁内部には、断熱や防水の目的で透湿防水シートと呼ばれるシートが施工されることが一般的です。透湿防水シートは、従来アルミニウム蒸着シートが用いられることが多いのですが、熱を吸収しやすく透湿度が低いという課題がありました。東洋アルミニウム(株)は、これまでに培ってきたアルミニウムの技術を駆使し、多孔アルミニウム箔*を使用した透湿防水シートを開発しました。本シートは従来よりも高い赤外線反射率や透湿度および耐久性を兼ね備えています。夏涼しく冬暖かい快適な住環境を実現するとともに、住宅の長寿命化にも貢献します。

*多孔アルミニウム箔:多くの微細な貫通孔が設けられたアルミニウム箔。



木造住宅の壁の一例(イメージ図)

2 環境保全

WHY? なぜ重要か?

私たちは、原料にボーキサイトという鉱物資源から造られたアルミニウムを加工し、さまざまな製品の素材に利用しており、その加工過程において多くの資源やエネルギー、化学物質などを利用し環境へ影響を及ぼしていると認識しています。そのため、地球環境と調和した経営活動を行う必要があると考えています。

OUR APPROACH

アプローチ

私たちは、製品による環境貢献と、事業活動における環境負荷低減の2つの側面から環境保全に取り組んでいます。環境貢献製品としては、太陽電池用の部材や、VOC発生量を低減する水性塗料の開発、各種蓄電デバイス用の高機能箔などの製造、販売を通じて最終消費者における環境負荷の低減に積極的に貢献していきます。事業活動では、製造における各工程でのエネルギー使用の削減や、廃棄物発生抑制、再利用、再生利用の推進に取り組んでいます。中でも地球温暖化防止については、パリ協定やSDGsの目標年度である2030年に向け、東洋アルミグループとしても長期的なCO₂排出量削減計画を検討中であり、今後取組みを推進します。

また、生産拠点を中心とした15拠点ではISO 14001を認証取得しています。環境マネジメントシステムの効果的な運用を通じて、環境トラブル発生防止や各種法令の遵守に加え、環境負荷の低減を図り、持続可能かつ地球環境と調和した経営活動を推進します。

OUR PERFORMANCE

活動事例

再生可能エネルギーのさらなる普及に向けて ～軽量太陽電池パネル「Hane™モジュール」～

従来の太陽電池パネルは、サイズや重量が原因で設置を諦めるケースがありました。東洋アルミニウム(株)が製造販売している「Hane™モジュール」は、「太陽光発電をより身近な物に」をコンセプトとする、軽量太陽電池パネルです。分散発電や非常用電源としての活躍も大いに見込め、再生可能エネルギーの普及に貢献しています。

例えば自社での活用も進めており、八尾製造所では、2017年度より駐車場のカーポートとして本製品を設置し、街灯用の電源として活躍中です。



「Hane™モジュール」を設置した八尾製造所カーポート(左)と、それを電源としたLED街灯(右)

SDGs達成への貢献

	東洋アルミグループが貢献可能なSDGsのターゲット	東洋アルミグループのアプローチ
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。	私たちは太陽電池や太陽光発電の部材の供給を通じて再生可能エネルギーの普及に貢献しています。例えば、太陽電池パネルの発電率向上や発電コストの低減、設置可能箇所の拡大などに取り組んでいます。また、製品の生産から利用までのエネルギー効率を改善し、温室効果ガスの排出削減に貢献します。
12 つくる責任 つかう責任	12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。 12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	循環型社会の構築に向けて、より環境負荷が少ない生産工程への変更や、廃棄物の排出量削減、再生利用といった取組みを推進しています。さらに2017年度、パルプモールドを製品ラインナップに加えるなど、製品を通じた貢献も推進します。

パルプモールド容器の開発

EUでは2018年に「欧州全体を対象としたプラスチックに関する戦略」を公表し、2030年までにEU市場から使い捨てプラスチック容器包装材をゼロにする政策を打ち立てました。また、プラスチック製の食器やレジ袋などに対しても規制をかける国が増えてきています。これによって、スーパーマーケットなどで使用される食品トレーを紙へと切り替える動きが欧米を中心に加速していくと考えられます。

このような情勢を受け、2017年度、東洋アルミエコープロダクツ(株)は従来からある紙製容器のECウェア*1、紙コップ容器に加え、新たにパルプモールド*2容器を開発し、紙容器のバリエーションアップを図りました。パルプモールド容器は、形状の自由度が高く、食品トレーとして幅広いニーズに応えることが可能となります。今後も、プラスチックに置き換わる紙容器事業の製造販売を強化していき、地球環境保護に貢献していきます。

*1 ECウェア：紙のシートをプレス成型したふち巻きタイプの紙トレー（ECとはふち巻きを意味するEdge Curlの略称）。

*2 パルプモールド：パルプを水で溶かし、金網で抄き上げた後、乾燥させてできる紙成形品。

設備投資を通じた省エネルギー活動

東洋アルミグループは、アルミニウムメーカーとして製造設備による環境負荷が大きいことを認識しており、パリ協定で定められた温室効果ガス排出量削減に貢献するため、環境効率の良い設備投資を積極的、計画的に実施しています。

2017年度は群馬製造所でVOC処理装置を新たに1基導入し、稼働していたうちの3基を廃止しました。この結果、都市ガス使用量60%削減(950t-CO₂)、電力使用量17%削減(40t-CO₂)をそれぞれ実現することができました。



群馬製造所VOC処理装置

3 多様な人財の活躍

WHY?
なぜ重要か?

日本の事業環境の大きな流れを表すキーワードとして「グローバル化」「労働力人口の減少」「個人の価値観の多様化」の3つがあります。これらの背景を踏まえ、個人が働きがいを感じ成長を実感する環境を整備し、多様な働き方を実現することで、持続可能な社会および持続可能な企業活動に貢献します。

SDGs達成への貢献

	東洋アルミグループが貢献可能なSDGsのターゲット	東洋アルミグループのアプローチ
5 ジェンダー平等を實現しよう	5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。	国内の少子高齢化による労働力人口の減少に対して、育児休業・育児短時間勤務制度の充実化を図るなど、性別に関係なく力を発揮しやすい環境を整えています。他にも、女性のキャリア支援を行い総合職へのコース転換も進めています。これらの取り組みを通じて、東洋アルミグループ内における女性の完全かつ効果的な参画および平等なリーダーシップの機会の確保に貢献します。
8 働きがいも経済成長も	8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。 8.5 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。	急速にグローバル化が進む事業環境の中で、外国人を含めた海外人財の採用を推進し、長期留学・短期留学制度をはじめ各種教育プログラムを通してグローバル人財の育成を行っています。この取り組みは、高いレベルの経済生産性の達成に貢献するものです。 また、働き方改革に向けて、会議の削減と効率化・新たなITシステムの活用によるコミュニケーションの活性化を通じた年間総労働時間の削減などに注力しています。この取り組みにより、生産的な雇用および働きがいのある人間らしい仕事の達成に貢献します。

OUR APPROACH

アプローチ

私たちは、人を大切にする企業として従業員の多様性・人格・個性を尊重し、「多様な人財*の活躍」を目指しています。

急速にグローバル化が進む事業環境の中で、外国人を含めた海外人財の採用を推進し、長期留学・短期留学制度をはじめ各種教育プログラムを通してグローバル人財の育成を行っています。

国内の少子高齢化による労働力人口の減少に対しては、育児休業・育児短時間勤務制度の充実化を図るなど、性別に関係なく力を発揮しやすい環境を整えています。他にも、女性のキャリア支援を行い総合職へのコース転換も進めています。

また、働き方改革に向けて、会議の削減と効率化・新たなITシステムの活用によるコミュニケーションの活性化を通じた年間総労働時間の削減などに注力しています。

今後も従業員一人ひとりがライフワークバランスを実現し、多様な人財が意欲を持ってその能力を遺憾なく発揮できる環境を整えていきます。

*人財:東洋アルミグループでは人は宝、つまり財産ということから人財の「材」に「財」を使い「人財」と表現しています。

OUR PERFORMANCE

活動事例

グローバル人財の育成

東洋アルミニウム(株)はこれまで、多数の人財を海外に派遣してきました。グループ全体としてグローバル人財の育成に注力する中、2017年度には東洋アルミエコプロダクツ(株)(TEP)が海外留学制度を新設しました。留学先は、海外のメイン市場のひとつであるシンガポールです。自社ビジネスと関わりが深い場所で語学を習得し、また、異なる文化や生活習慣に触れることで、グローバルに対応するという目的を持ち、2017年度は2名の人財を派遣しました。

今後もグループ全体を通して積極的な海外留学派遣を実施する予定です。



TEP留学第1期生の松本 純(左下)

■ 海外留学数・赴任者数推移*

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度(予定)
海外留学数	4名	2名	3名	3名	5名
海外赴任者	20名	13名	13名	17名	17名

*データバウンダリは、東洋アルミニウム(株)。

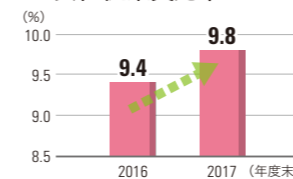
女性従業員の活躍推進

東洋アルミグループにとって女性活躍推進は経営課題であると捉えています。

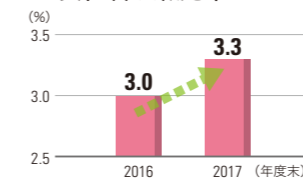
東洋アルミニウム(株)では、2017年の採用活動(2018年4月入社)にて女性スタッフの採用に力を入れ、その結果、総合職の約20%を女性総合職として採用することができました。また東海東洋アルミ販売(株)では職群転換の制度が2017年に新設され、この制度のもと、2018年1月に初の女性営業職が誕生しました。

2016年度より2019年3月31日までに女性従業員の3%を総合職へのコース転換ができるよう目標を定めていますが、2018年3月31日時点では約1%です。コース転換目標についてはまだまだ道半ばではありますが、今後はさらに女性活躍の風土を定着させ、女性総合職・管理職の比率を上げていきます。

■ 女性従業員比率**



■ 女性管理職比率**



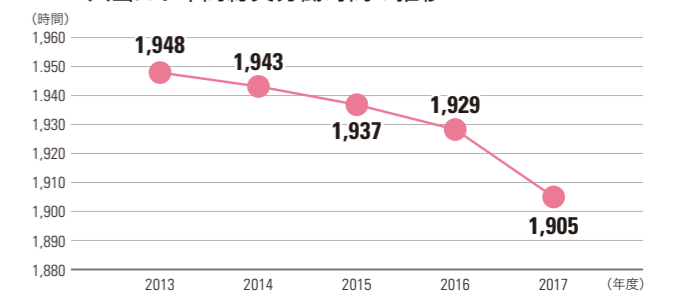
**データバウンダリは、東洋アルミニウム(株)。

働き方改革へ向けて

働き方改革の施策として、労働時間削減のためのさまざまな取り組みを推進しています。

2017年度には、グループ横断の会議改革プロジェクトを立ち上げ、会議体制を見直し、会議の数を大幅に削減しました(約18%)。また、会議そのものを効率的に進めるべく、ファシリテーターの育成にも取り組んでいます。他にも、メールではなくチャット形式のITツールを導入しました。これらの結果、一人当たり年間総実労働時間が約24時間削減できました。また、責任と権限を部下に委譲した自律型組織への変革の取り組みも始まっています。自律型組織の下、従業員全員が活き活きと働くことができるよう環境を整えていきます。

■ 一人当たり年間総実労働時間の推移



4 品質と安全

WHY? なぜ重要か?

私たちは、お客さまが安心して使うことができ、満足と喜びを感じられる製品、社会に役立つ製品を創造し提供することを目指しています。

一方で、「安全なくして生産なし」を合言葉に、安全を全ての職場の最優先事項に掲げて事業運営を行っています。製品安全と労働安全の双方の追求は、メーカーの社会的責任の基礎であると考えています。

SDGs達成への貢献

	東洋アルミグループが貢献可能なSDGsのターゲット	東洋アルミグループのアプローチ
8 働きがいも 経済成長も	8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。	お客さまに品質の安定した製品を提供できる背景には、私たちが安全で衛生的な環境を保ちながら製造を行うことがベースになると考えています。マネジメントシステムが機能しているか、その他のリスクが存在しないかなどを確認するために内部監査を展開し、PDCAサイクルを回すしくみにしています。
12 つくる責任 つかう責任	12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	最終製品が持続的・効率的に利用されるには、そこに使われる素材に高い品質が求められます。高品質の確保は、結果として品質不良製品を減少させ無駄な廃棄物が削減できます。さらに、お客さま先で長く効率的に使用できる製品の提供により、廃棄物発生の抑制を目指します。

OUR APPROACH

アプローチ

私たちは国内外のグループ会社も含めた16拠点でISO9001の認証を取得しており、全ての事業所で2015年版への移行を完了しています。

安全面では、各生産拠点に安全衛生事務局を配し、東洋アルミニウム(株)CSR推進室がそのマネジメントシステムのセンターとなり、本社と生産現場が一丸となって労働安全衛生活動に取り組んでいます。

また日々私たちがサポートいただいている委託加工先の品質・安全に関する責任についても全うするため、委託先の自主性を重んじつつ品質パトロールや貸与設備の安全立会などを積極的に支援することで、自社グループ生産拠点外での事故・トラブルの発生防止にも努めています。

昨今、企業の信頼性を大きく揺るがすような品質問題が報じられていますが、私たちはお客さまから一層信頼いただける企業となれるよう、社会規範の遵守はもちろん継続的な改善により、さらなる品質・安全性の向上に努めていきます。

OUR PERFORMANCE

活動事例

製品の安全性向上のため 工程内検査データを補修計画に活用

薬品包材・食品容器などを扱う東洋アルミグループとして最も避けたい事故のひとつに、製品への異物混入があります。その発生原因の中でも大きなウェイトを占める金型起因の事故対策として、東洋アルミエコープロダクツ(株)滋賀工場では、工程内検査データを分析した上で使用頻度の高い金型を把握し、計画的な補修を実施しています。この取り組みの結果、2017年度のアلمミ片混入事故はゼロとなりました。

2018年度は活動主体を本社の品質保証部から各生産拠点に移すことで、現場主体の取り組みに変えていきます。



金型修正作業

労働安全衛生マネジメントシステムの 積極的な展開

各生産拠点では、労働災害の発生を防ぐため、労働安全衛生マネジメントシステムにのっとった活動を展開しています。このうち、主としてアルミ箔の貼り合わせ品などの事業を行う、東洋アルミニウム(株)の群馬製造所、湘南矢畑製造所、茅ヶ崎製造所および八尾加工工場では、2017年9月に、ISO17050(自己適合宣言規格)に基づき自己適合宣言を行いました。今後も自発的な取り組みを推進していきます。



加工品4事業所合同のOHSMS内部監査指導会風景

平成29年度労働安全表彰事業場 「特別優良賞」の受賞

労働安全衛生に関する継続的な活動の結果として、東洋アルミニウム(株)八尾製造所、湘南矢畑製造所、新庄製造所、新庄製造所(御所)は、一般社団法人日本アルミニウム協会の平成29年度労働安全表彰事業場「特別優良賞」を受賞しました。この賞は、休業・不休業災害ゼロ、労働安全衛生規則第96条(火災・爆発)の届出事故がないこと、構内協力会社も休業・不休業災害ゼロの全てを満たすことが条件となります。このような無災害継続の意識高揚のため、東洋アルミグループでは、独自に無災害(休業災害ゼロ)1000日賞の表彰も行っています。

「特別優良賞」の受賞回数

事業所	受賞回数
八尾製造所	初受賞
新庄製造所	4回目
湘南矢畑製造所	2回目
新庄製造所(御所)	5回目



日本アルミニウム協会労働安全表彰受賞事業場代表者集合写真

5 ステークホルダーとの協働

WHY?
なぜ重要か?

私たちは、持続可能な社会へ貢献するとともにイノベーションを起こし持続可能な事業活動を推進するため、お客さまのみならず、地域社会や行政、NPO、従業員など、あらゆるステークホルダーとの協働を重視した経営を心がけています。ステークホルダーとの対話を積極的に実施することで企業価値を高めていくことを目指します。



SDGs達成への貢献

	東洋アルミグループが貢献可能なSDGsのターゲット	東洋アルミグループのアプローチ
<p>12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</p>	<p>12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</p>	<p>アルミニウムを取り扱うメーカーとして、自社内で行っている活動や専門的な技術について、多くのステークホルダーに広く知っていただく取組みをしています。次世代教育を通して、私たちだけでなく業界全体を活性化させ、より一層の技術発展により持続可能な社会の構築に貢献します。</p> <p>製造所の周辺住民の方々が安心して生活できるように日々細心の注意を払いながら生産活動を行っています。周辺住民の方々とコミュニケーションを取りながら、地域社会にも貢献したいと思えます。</p>
<p>13.1 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。</p>		<p>私たちは、世界各国、とりわけ事業所周辺の国や地域において発生している気候関連災害や自然災害発生時には、その地域と連携して災害支援活動を実施しています。今後は、例えば地域住民と防災対策を検討するなど、その地域の災害への強靱性(レジリエンス)や適応能力の強化にも貢献したいと考えています。また、BCM(事業継続マネジメント)を策定し災害などが起こった際に、なるべく早急に通常の事業活動に復帰するための準備を進めています。</p>

OUR APPROACH

アプローチ

私たちは、生産活動や雇用を通して地域の社会経済活動に影響を与えています。最も身近なステークホルダーである従業員や事業所周辺の地域社会・NPO法人との協働、および自社製品を通じた貢献を中心に社会貢献活動を行うことで企業価値向上を目指しています。

具体的な取組みとして、地域の文化事業への支援や環境保全活動への協賛、NPO法人によるフードドライブ活動への協力や支援活動などを積極的に行っています。ホームページに子どもをメインターゲットとした「アルミニウムの自由研究」サイトを開設するなど次世代育成にも力を入れています。他にも、従業員による地域の清掃ボランティア活動や、自然災害により被災された地域への支援活動を実施するなど、今後も積極的な取組みを推進し、持続可能な社会へ貢献するとともに、私たちの企業価値をさらに高めていきます。

OUR PERFORMANCE

活動事例

生産拠点における次世代環境教育への貢献(日野製造所)

地域に大きな影響を与えている生産拠点で次世代環境教育に貢献することは、東洋アルミグループと地域、双方の持続可能性に大きく影響を与えるものと考え活動を行っています。

日野製造所は、製造所が位置する滋賀県立琵琶湖博物館の第二期リニューアル事業に協賛しました。同館は「湖と人間」をテーマにした総合博物館で、環境に関する郊外学習や大学、研究機関との共同研究も積極的に行われており、多くの来館者が訪れる環境学習施設でもあります。



琵琶湖博物館 篠原館長(右)との記念撮影

災害支援活動

(湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司(中国))

東洋アルミグループでは、国内外問わず「企業市民として積極的に社会に貢献する」という思いで災害支援活動を実施しています。

中国湖南省にある湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司では、2017年度に湖南省寧郷市青山橋鎮で発生した水災害時に、労使合同で災害支援活動を実施しました。非常食などの市政府への寄付はもちろん、実際の被災地の復旧活動に参加しました。後日、被災市政府や支援先から感謝の言葉を頂戴しています。



被災地にて



支援物資(スコップ、リヤカー)



支援物資(米、油)

「アルミニウムの自由研究」サイトの開設

多くの方がアルミニウムに興味を持つ機会をつくることは、私たちにとって重要であると考えています。

幅広い世代の方にアルミニウムへの理解と関心を深めていただくために、平易な表現やイラストを使用した「アルミニウムの自由研究」サイト*を2017年度に開設しました。

本サイトの開設により、今まで私たちと直接的なつながりの薄かった小学生の保護者や教師から問合せをいただいているほか、テレビ番組や大手企業の組合機関誌の編集部から取材の依頼をいただくなど、大きな反響がありました。

*詳細は東洋アルミニウム(株)ホームページ内「アルミニウムの自由研究」をご覧ください。
<http://www.toyal.co.jp/jiyukenkyu/index.html>



コーポレート・ガバナンス

東洋アルミグループでは2016年に東洋アルミグループ経営理念 ハンドブック第3版を全従業員に配付しました。ハンドブックを全従業員が携帯することで、経営理念や行動方針をより明確に示し、従業員の行動の指針となるようにしています。

また、CSR基本方針、CSR行動憲章なども掲載し、CSR体制を構築するよう努めています。

2017年度に引き続き2018年度も東洋アルミ全部門とグループ会社を対象に、コーポレート・ガバナンスの強化を推進していきます。

内部統制システム

東洋アルミグループでは、金融商品取引法に基づく「適正な財務報告を作成する」ためのプロセスを構築するとともに、会社法に基づく「リスク管理」や「独占禁止法」などの法令遵守姿勢を明確にし、監査・見直し・改善を進めながら、グループ会社全体の内部統制システムの充実を図っています。

リスクマネジメント

東洋アルミグループでは、「グループ・リスク管理規則」に基づいて、グループにおけるリスク管理に関する基本的事項を定め、事業を取り巻くさまざまなリスクに対して、事業戦略と調和した的確な管理・実践を通じ、企業価値の持続的向上を目的に活動を展開しています。

各社個別の取組みに加えて、東洋アルミグループとして総合的な管理が必要な9つのリスクを「重点対策リスク(右表)」とし、それぞれ担当部門を定め、リスク管理を推進しています。

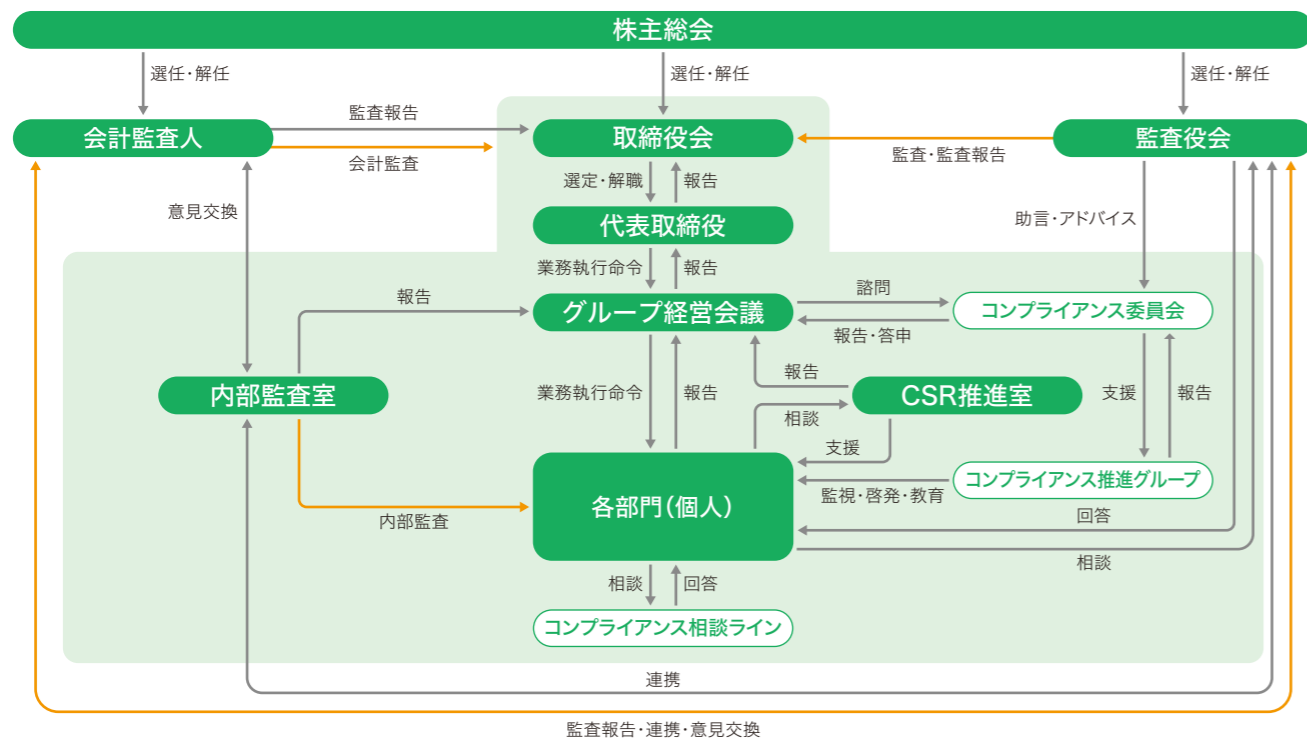
東洋アルミニウム(株)代表取締役社長をグループ全体の最高責任者とし、東洋アルミニウム(株)取締役およびグループ会社代表取締役社長は、リスク管理責任者として担当する部門・会社におけるリスク管理について指導・統括する責任を負います。

この「重点対策リスク」については、内部監査室が担当部門に対し総合的な監査を半期ごとに行い、その結果を経営会議に報告します。グループ経営会議メンバーは、リスク管理責任者に対し必要な助言を行い、特に取組みが不足しているリスク管理については、是正措置などの検討を指導します。

重点対策リスク

- | | |
|----------------|---------------|
| (1) 製品・サービスの欠陥 | (6) 企業・個人機密流出 |
| (2) 環境問題 | (7) 適時情報開示の懈怠 |
| (3) 自然災害・事故災害 | (8) 安全保障貿易管理 |
| (4) 安全・衛生問題 | (9) 海外危機管理 |
| (5) 情報システム問題 | |

■ コーポレート・ガバナンス体制



私は業務用食品容器関連の営業担当として業務を行っています。アルミ・紙といったリサイクルに優れている素材を用いた製品を扱っており、中でも森林環境を守るために適切に管理された森林から伐採してつくられる森林認証紙素材の製品の販売を積極的に行っています。

今後も環境に配慮した製品の販売に取り組んでいきます。



私が所属する知的財産部において、当社各事業部門と研究開発部門との三位一体の体制をさらに強化し、既存事業の価値拡大のみならず新規事業の創造の支援に務め、「未来を創るイノベーション」に取り組んでいきます。より具体的には、知的財産権の利活用による価値創出と最大化を図り、持続的な研究開発体制構築を通して、より良い社会づくりへ貢献します。



私たち経営企画部は、国内や海外のグループ関係会社の管理体制構築を図っていくことによって、関係会社の事務合理化やガバナンス向上を支援し、持続可能なグローバル企業に求められるESG経営(環境対応・社会責任・企業統治)の企業統治の推進に努めていきたいと考えます。



事務職を3年半経験し、2018年1月に総合職へ職群転換いたしました。女性の営業職第一号ということで不安や迷いもありましたが、周囲の皆さんに助けられ、安心して働くことができました。これから総合職転換を望む後輩たちのロールモデルとなるように、女性の営業職として自らの営業スタイルを見つけ、貢献していきたいです。



多様な人材の活躍は人事部の大きなテーマです。国籍・性別にとらわれない多様な従業員が活躍できるよう、柔軟な制度・多様な文化を受け入れる風土・職場環境などを整えていきたいと思っています。



私はアルミ箔生産設備担当として業務を行っています。生産活動では、多くのエネルギーを消費し、二酸化炭素を発生させています。今後は再生可能エネルギーの活用について検討を行うと共に、エネルギーの消費を大きく抑制できるものづくり改革、プロセス・イノベーションについて製造部門と協働で取り組んでいきます。



私たちの事業本部では、水性塗料に適合し彩度の高い着色アルミペーストや、電子部品業界に欠かせない高熱伝導性窒化アルミなど、高機能製品によって、VOC削減や、エネルギー問題などに貢献していきます。事業戦略室として、SDGs達成のためのアライアンス構築、新しい技術基盤の確立など、さまざまな提案を行っていききたいと思います。



私たちの事業本部は、太陽光発電の関連部材を開発、製造、販売する部署で、まさに「エネルギー」、「地球環境」に直結する事業本部です。事業部の各メンバーが社会に貢献していることをモチベーションに変え、「エネルギーをより身近なものに」を今後も続けていきます。

一人ひとりが語る 未来への貢献



明治大学 経営学部 特任教授 および
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室 シニアアドバイザー

関 正雄 氏

全体を通じて、昨年と変わらぬトップの強いリーダーシップに加えて、今年は特に一人ひとりの従業員の参加が強く感じられます。SDGsを社内の共通言語に位置付けて、経営への統合を進めようと、全社をあげて取り組んでいることが伝わる内容です。昨年に比べて未来志向がより強まっており、確実に取組みの進化がみてとれます。

評価すべき点

- 山本社長がトップメッセージで、SDGsを創立100周年(2031年)のビジョンづくりに生かすと共に、中期経営計画に組み入れることにも言及しており、SDGsを経営戦略に組み込む強い意思を明確に表明していること。
- 「創立100周年に向けたサステナビリティ・ビジョン構想」で、従業員の参加するワークショップが何度も実施されており、自社の未来を自分たちで考え、自分たちの手で行くという社内のワクワク感があること。
- SDGsと自社の新たな接点を見いだす手法として、大きな17目標のレベルだけではなく、具体的な169のターゲットのレベルで考えていること。SDGsの有効活用法としての得た方法である。
- 世界中で懸念が高まっているプラスチックごみ問題への解決策として、パルプモールドでの容器など、自社の強みを生かしたソリューションを提案していること。

改善すべき点および推奨事項

- 中長期目標の設定・開示をすべき。従来型の、過去のトレンドを踏まえた年単位の目標設定だけではなく、例えばCO2

削減や女性管理職比率など、中長期の到達目標を設定することにチャレンジしてほしい。レポートでも言及しているアウトサイドインとは、まさにそのことであり、イノベーションを生むためにも必要。

- サプライチェーンに関する記述がみられない。5つの重要課題(マテリアリティ)全てに関係する横断的テーマであり、ステークホルダーの関心の高いテーマである。次年度はサプライチェーン・マネジメントに関して、情報開示を行うべき。
- SDGs関連では、主に環境面で取り組んでいるが、今後はSDGsの他の側面、例えば『誰ひとり取り残さない』という包摂的な社会づくりに関しても、自社製品を通じた貢献の可能性を検討して欲しい。それがイノベーションにもつながるはず。
- 「一人ひとりが語る未来への貢献」で従業員メッセージを紹介するのは、顔が見えてよいが、ジェンダーバランスを考えて、もっと女性を登場させるべきではないか。ビジョン構想ワークショップメンバーの選定にも、同様の配慮が必要。

おわりに

重要課題の第1に掲げた、「未来を創るイノベーション」には、今後ますます力を入れてください。素材メーカーとしてのポテンシャルを発揮することが、中長期での企業価値向上に大きく貢献すると考えます。

SDGsと経営戦略の一体化に向けて歩み出しここまで正しい道筋で進んできており、今後の成果を大いに期待しています。

今年も関特任教授より私たちの活動に対して貴重なご意見を頂戴することができ、厚く御礼申し上げます。

まず冒頭に「昨年に比べて未来志向がより強まっており、確実に取組みの進化がみてとれます」と大変温かい応援メッセージを頂戴しました。さらに活動を推進していく勇気をいただいた想いがします。

しかし、まだ端緒に就いただけで、ご指摘のとおり、アウトサイドインの考え方など解決すべき課題は多々あります。

今後、「TOYAL2031 ～100周年に向けて～」の目指す姿を実現するため、重要課題の「未来を創るイノベーション」を原動力として社会課題の解決に取り組んでまいります。

第三者意見を
受けて

常務執行役員
CSR推進室統轄
吉田 昌弘



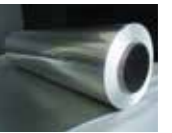
事業概要

- **社名**
東洋アルミニウム株式会社
- **代表取締役社長**
山本 博
- **本社所在地**
〒541- 0056
大阪府大阪市中央区久太郎町
三丁目6番8号 御堂筋ダイワビル
- **設立**
1999年5月12日
(旧東洋アルミニウム株式会社は
1931年4月7日設立)
- **資本金**
80億円
- **従業員(2018年3月末現在)**
(連結)2,542名
(単体)1,450名
- **株主**
日本軽金属ホールディングス株式会社
100%

● 主な事業内容

▶ **箔事業**

独自の技術とノウハウをもとに独創的なアルミ箔製品を開発・提供しています。また、軽く高性能なアルミ箔の特性を活かして、未来の分野へ高機能・高性能素材の提案を進めています。



▶ **パウダー・ペースト事業**

アルミペーストは、意匠面・機能面の向上に注力した開発を進めています。また、アルミニウム粉末およびその応用製品の提供を通じて、化学品/電子材料/自動車/航空宇宙分野の発展に貢献しています。



▶ **ソーラー事業**

太陽電池をはじめとする地球環境保全関連分野およびその成長分野に特化した体制を整えています。中国を中心とした海外の太陽光発電ビジネスを注視し、独自技術の製品を提案していきます。



▶ **日用品事業**

暮らしを知り尽くしたマーケティング力と素材を知り尽くした生産技術力が強固な基盤となっています。生活に身近な家庭用品や食品用のアルミ箔容器、紙製のパッケージ用品の製造・販売を行っています。



グローバルネットワーク





東洋アルミニウム株式会社

<http://www.toyal.co.jp/>

大阪オフィス

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号(御堂筋ダイワビル)
TEL(06)-6271-3151 (代表)

東京オフィス

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号(天王洲郵船ビル)
TEL(03)-5461-0711 (代表)



この印刷物から発生するCO₂は
カーボンフリーコンサルティング株式会社を
通じてオフセットされています。